

皆さまから寄せられた 質問にお答えします

Q 女性用衣類は国内販売とのことですが、売れ残ったものはどうしているのでしょうか？

A ショップ、フリマ、その他イベントなどで販売後、売れなかったものはパキスタンへ輸出します。

まず、JFSA に寄せられる衣類の半分以上は女性用のものです。そして JFSA の活動を支える国内販売事業(ショップやフリーマーケット)においては、女性用衣類の需要が高く、重要な存在です。しかし一方で、女性用衣類はパキスタンでは需要が低いため卸売価格も低い品目です。

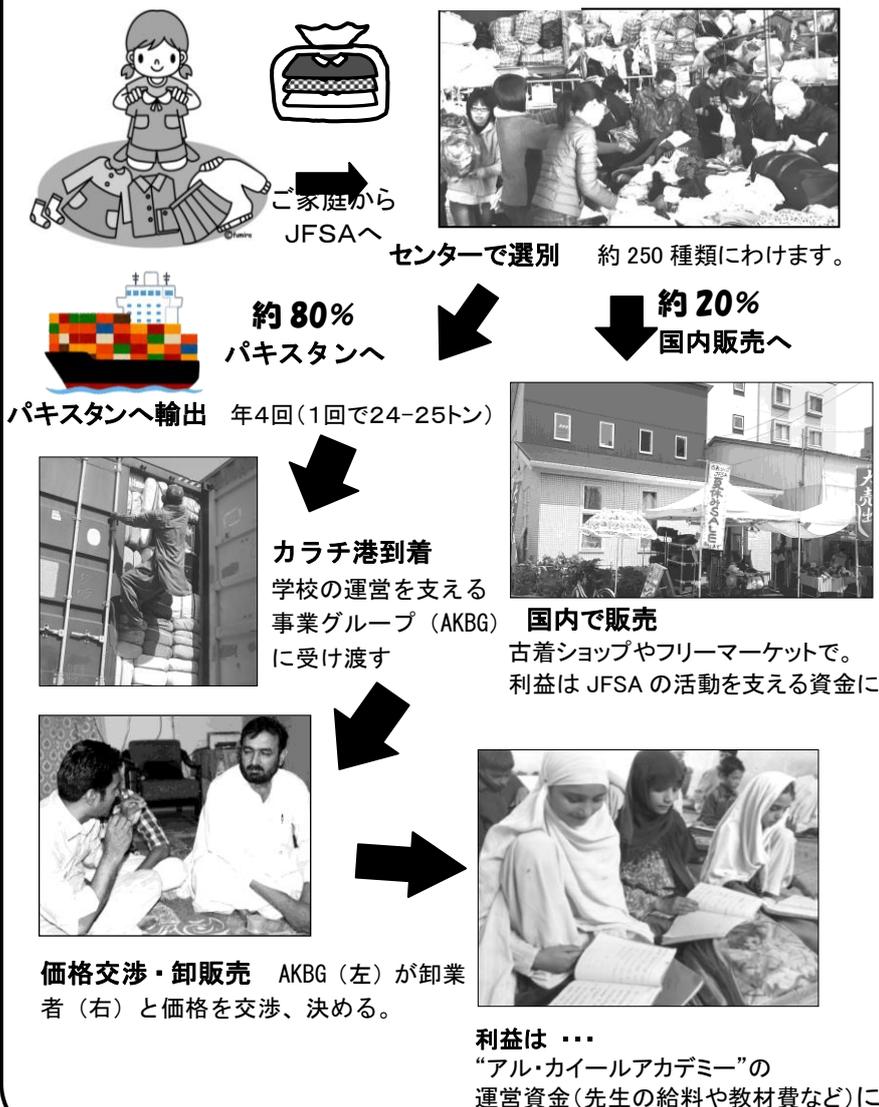
JFSA では女性用衣類については「国内販売用(新品または新品同様の状態のもの)」として皆さまに呼びかけ、寄せられた衣類は販売場所、販売方法などの工夫も合わせ、なるべく国内販売で活用させていただいております。その上でどうしても売れ残ったものは、現地アル・カイル事業グループとも相談(1回あたりの輸出量の上限を決めるなど)の上で輸出しています。

他にもご不明な点は JFSA までお電話や FAX、メールなどでお問合せ下さい。

衣類を整理している皆さまへ

JFSA からの案内を読んでいたいただき、ありがとうございます。スラムに暮らす子どもの自立を支える JFSA と AKBG の連帯事業は、古着を出してくださる方がいて、始めることができます。私たちは、皆さまと一緒に古着のゆく先に暮らしている“働きながら学ぶ”子どもたちが存在しているわけを自分たちの暮らしを通して考え、事業を進めていきたいと思っています。

JFSAに出した古着のゆくえ



アル・カイルアカデミーとは カラチ市 人口1800万人の大都市

パキスタン最大の都市、カラチ市のスラムにある無料の学校で、本校と6つの分校があります。また、アル・カイルアカデミーを卒業した子どもたちが通っている専門学校が1校、山岳部に分校が1校あり、全体で約3500人の子どもが通っています。校長のムザヒル氏は、1987年に10人の子どもとっしょに学校を始めました。

子どもたちは、家計を支えるため働きながら学んでいます。働きながらも学べるよう、授業は午前・午後の2部制です。また夏休みのような長期休暇はありません。学校に行かない期間をつくると、子どもたちはその時間働き、稼ぐようになります。そして、休みの後に学校に通わなくなるからです。

学校は子どもたちが勉強する機会をつくと同時に、一日のうちの数時間を友だちと遊んだりして過ごす場になっています。

